

令和6年度 第3回地域ケア推進会議を開催！

令和6年11月26日に第3回地域ケア推進会議を開催しました。今回は「高齢者の健康課題に関する報告」「認知症初期集中支援チーム報告とグループワーク」「新たな地域課題にむけた検討」と3つの項目で会議が開催できとても充実した時間となりました。グループワークでは、認知症の人が地域で生活していくために周りができることについて4グループに分かれて話し合い、それぞれの所属している団体の立場から様々なご意見を聞くことができました。



質問

分析結果の中の介護給付費は施設の方が3900万円減少し居宅が2400万円増加と苦戦されていますが、施設に入られる方が少なくなってきたことで自宅へ援助を受ける方が増えているということでしょうか？

答え

施設サービスの給付費が減少したということですが、人数が必ずしも減少しているわけではありません。居宅は人数の増加よりもサービスをどう使っているかが影響します。また、有料老人ホームは居宅の扱いになりますので、有料老人ホームに入っている方が介護サービスを使われた場合、居宅の給付費が増えるという形になっております。

高齢者の健康課題に向けた検討

高齢者の健康状態について一人あたりの入院医療費は低く、重症化が防げていると考えられているものの、生活習慣病が悪化した際におこる「慢性腎臓病」が全体の医療費で最も割合の高いものでした。定期受診や内服に加え、健康診断による早期発見が重要です。しかし、小諸市は健康診断受診率が低い状況であり、今後も受診率向上のために取り組んでいきます。

また、高齢者に行われている「基本チェックリスト」や「質問票」から比較的自立した生活を送り、健康状態も良いと感じている方が多いことがわかりました。引き続きフレイル予防の取り組みを実施し、健康寿命の延伸に向けて頑張りたいと話がありました。

小諸市の認知症に関する現状と取り組み及び

認知症初期集中支援チーム検討会議

小諸市の高齢化率は4月1日現在で33.22%となっており、小諸市の人口の3人に1人は高齢者となっています。また65歳以上の介護保険の要支援要介護の認定を受けている方の約7割は認知症の症状があります。認知症は脳の疾患により認知機能が低下し、日常生活に不具合が生じる状態のことをいい、年齢が高くなるほど、有病率は高くなることも説明がありました。また、認知症啓発動画の紹介や認知症



サポーター養成講座を企画・開催し講師を務め、住民からの相談や関係機関との連携を図ることを通じ、認知症の取り組みを推進していく「キャラバンメイト連絡会」や認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援者として、市町村がコーディネーターを配置し、地域において把握した認知症の人の悩みや家族の身近な生活支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組みの「チームオレンジ」についても説明がありました。

グループワーク①

テーマは…

認知症の人が地域で生活していくために 周りができることを考える

- ・ 事例に出てくる支援者である家族も孤立してしまっているのではないかな。家族に対する支援も必要。
- ・ ご近所等本人がフランクに話せるような関係性が大切。
- ・ ボランティア活動等自分に適した場所のできる役割を持つことも必要。
- ・ 介護保険サービスの利用をしてはどうか。
- ・ 服薬管理について3食後に飲むのが難しければ、回数を減らすのもいいのではないかな。
- ・ 本人のできることでできないことを医師に確認してみてもいいのではないかな。
- ・ 本人の要望（一番したかったこと）はなにか。
- ・ 食に対するアセスメントをしてはどうか。



実際の事例を

もとに考えました！！

グループワーク②

テーマは…

各団体・機関における認知症についての 取組み・進捗状況について共有

医師会：認知症の新薬ができた。超早期の認知症診断で「最近困っていること」「最近の楽しみ」「気になるニュース」を聞くといい。

区長会：区長は任期が1年と短いので毎年認知症の研修をすれば認知症の理解が深まるのではないかな。

歯科医師会：先生たちも認知症の勉強をしている。少しずつ相談をつなぐ機関になれるのではないかな。

高齢者クラブ：シニア教室等で介護のこととかを学べる。人との繋がりが認知症予防になるというところの視点で、地区の通いの場等に参加する人を増やしていくように声かけをしている。

薬剤師会：認知症のお薬のことで家族にとって何が不安かや負担になっているのかを丁寧に引き出した上でモニタリングしている。

民生委員：認知症サポーター研修を行った。

小諸市：独居の認知症高齢者への対応や窓口とか生活の場での支援ということがこれから課題になってくる。本年度より生活塾で介護方法を学ぶ機会を設けている。

地域包括支援センター：認知症地域支援推進員の学習をし、本人に寄り添える支援をしていきたい。

福祉施設の「空き車両」を活用した移動支援に関する報告と新たな地域課題

福祉施設の空き車両を活用した移動支援

・区へのヒアリング

⇒「移動に課題があり、健康達人区らぶに來ることができない方はいますか？」という問いに対して68区中、10区より支援ニーズがあると回答。そのうちの4区（一ツ谷区、石峠区、耳取区、御影区御影地区）は地域の支え合いで対応が難しい。

・介護保険サービス事業所アンケート結果

⇒「送迎があれば地域活動に参加できる高齢者がいる」という地区があった場合、送迎の協力ができますか？という問いに対して24事業所中、19事業所より「関心がある」と回答。そのうち6事業所より「協力できそうである」と回答。一方で「自動車は出せるがスタッフは出せない」「事故があった場合の補償が難しい」との声もあった。

・今後の展開

- ①自動車と運転手提供可能モデル→施行区の拡大
- ②自動車のみ提供可能モデル→仕組みづくり
運転手探し（元運転手や移動支援に関心のある方を探します。）
- ③持続可能な取り組みに向けて協力事業者に対する継続的なフォロー
実費負担相当分などへの補助など、今年度中に整備していきます。

新しい

課題の種！ 草刈りと雪かき

現在地は「雪かき問題は誰の問題なのか？」

ご本人？近所の人や民生児童委員？デイサービスやヘルパー？

⇒この冬の情報収集をし、その結果から見える「誰の問題なのか」仮説を今後の会議で提示します。